

製品名: CCK-BR ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08130**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	CCKBR
別名	CCKBR; CCKRB; Gastrin/cholecystokinin type B receptor; CCK-B receptor; CCK-BR; Cholecystokinin-2 receptor; CCK2-R
遺伝子 ID	887.0
SwissProt ID	P32239
免疫原	抗血清はヒト CCKBR 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 11-60

背景

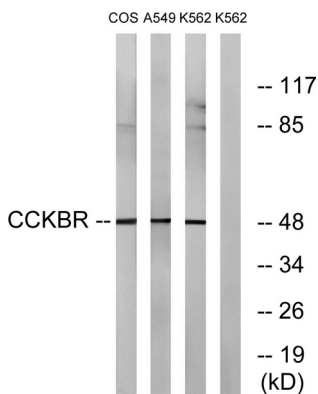
この遺伝子は、脳と消化管の調節ペプチドであるガストリンおよびコレシストキニン（CCK）の G タンパク質共役受容体をコードし

ています。このタンパク質はB型ガストリン受容体であり、硫酸化および非硫酸化 CCK 類似体の両方に高い親和性を持ち、主に中枢神経系と消化管に存在します。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。イントロンを含む誤ったスプライシングを受けた転写バリエーションが、結腸直腸がんおよび膵臓がんの細胞で観察されています。[RefSeq 提供、2015年12月]、機能: ガストリンおよびコレシストキニンの受容体。CKK-B 受容体は中枢神経系全体に存在し、不安、鎮痛、覚醒、神経遮断作用を調節します。この受容体は、ホスファチジルイノシトールカルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化する G タンパク質と結合することで作用を媒介します。アイソフォーム 2 は、ガストリン非依存性のメカニズムを介して癌細胞の増殖を制御している可能性があります。、オンライン情報:コレシストキニン受容体エントリ、類似性:G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。、組織特異性:アイソフォーム 1 は、脳、膵臓、胃、大腸癌細胞株 LoVo および T リンパ芽球腫 Jurkat で発現していますが、心臓、胎盤、肝臓、肺、骨格筋、腎臓または胃癌細胞株 AGS では発現していません。小細胞肺癌細胞株 H510 では高レベルで発現し、H345、H69、および GLC28 では低レベルで発現していますが、GLC19 では発現していません。胃内では、胃底粘膜で高レベルで発現し、幽門および十二指腸では低レベルで発現しています。アイソフォーム 2 はアイソフォーム 3 は、脳、膵臓、胃、胃癌細胞株 AGS、大腸癌細胞株 LoVo で発現しています。

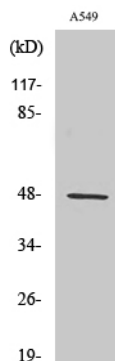
研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;

画像データ



CCKBR 抗体を用いた A549、COS7、K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CCK-BR ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析